

農業被害減少を目指す



シカやイノシシなどの有害鳥獣による農作物被害が増加し、全国各地で農地を荒らす加害個体の捕獲や防護等による住み分けなどの対応に取り組んでいる。

町内で農業を営む浅井功さん（68歳）は、宮城県猟友会黒川支部長と大和町鳥獣被害

対策実施隊長を務めており、捕獲に協力している一人だ。

射撃に興味があった浅井さんは、20歳で狩猟免許を取得し、ヤマドリやキジなどを標的に猟をしていたが、農地を荒らすイノシシが急増したため、地域から捕獲依頼が殺到し、今では標的の中心はイノシシになっている。

鳥獣の捕獲は、自治体から許可を得て捕獲する「許可捕獲」と、狩猟期間中に狩猟可能な場所で捕獲する「狩猟による捕獲」に大別される。

通年で捕獲するには「許可捕獲」が必要だが、大和町鳥獣被害対策実施隊への入隊などの条件がある。かつては一握りのベテランにしか「許可捕獲」は許されなかったが、今では入隊を勧め、人手を増やしている状況だ。

浅井さんは「毎日捕獲に出動しているが、なかなか加害個体が減らない。人員と捕獲頭数を増やすことが、農地の被害防止や住民の安全につながる」と話し、改善への道筋を見据えている。

【記事提供：大和町農業委員会】